

事例番号:310152

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 23 週 3 日 切迫早産の診断で搬送元分娩機関へ入院

妊娠 23 週 6 日 子宮頸管無力症、切迫早産のため当該分娩機関へ母体搬送  
され入院

妊娠 27 週 血液検査で CRP 5.66mg/dL

妊娠 29 週 血液検査で CRP 5.33mg/dL

#### 3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

#### 4) 分娩経過

妊娠 32 週 0 日

8:08 陣痛発来

妊娠 32 週 1 日

8:14- 胎児心拍数陣痛図で高度変動一過性徐脈を認める

8:17 10 cm 大の凝血塊排出

8:25 経膣分娩

胎児付属物所見 胎盤後血腫あり、血性羊水あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:32 週 1 日

(2) 出生時体重:1960g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.252、PCO<sub>2</sub> mmHg、PO<sub>2</sub> 53.8mmHg、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 17.5mmol/L、

BE -4.5mmol/L

(4) アプガースコア:生後1分7点、生後5分8点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 早産、低出生体重児、慢性剥離羊水過少症候群疑い

(7) 頭部画像所見:

生後32日 頭部MRIで脳室周囲白質軟化症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医1名、小児科医3名

看護スタッフ:助産師2名、看護師1名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことである。

(2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因は分娩直前に発症した常位胎盤早期剥離に伴う胎児循環障害の可能性はあるが、それ以前の妊娠経過中である可能性も否定できない。

(3) 児の未熟性がPVL発症の背景因子であると考ええる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

(1) 搬送元分娩機関における妊娠管理は一般的である。

(2) 当該分娩機関での妊娠管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 妊娠32週0日に前期破水の診断にて子宮収縮抑制薬の投与を中止し、分娩の方針としたことは一般的である。

(2) 前期破水後分娩監視装置を装着したこと、陣痛発来後に分娩監視装置を断続的に装着したことは一般的であるが、間欠的児心拍聴取について記載が

ない時間帯があることは一般的ではない。

- (3) 妊娠 32 週 1 日 8 時 14 分からの高度変動一過性徐脈の出現に対し、酸素投与を行い経膈分娩を続行したことは一般的である。
- (4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (5) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

出生後の新生児の管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

観察した事項および実施した処置等に関しては、診療録に正確に記載することが望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

- ア. 早産期の脳性麻痺発症の原因や病態生理に関して、更なる研究の推進が望まれる。
- イ. 常位胎盤早期剥離は、最近の周産期管理においても予知が極めて困難であるため、周産期死亡や妊産婦死亡に密接に関与する。常位胎盤早期剥離の発生機序の解明、予防法、早期診断に関する研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。